

留学後の就職

日本での就職

正規留学（留学先で学位を取得）した場合

海外の大学は日本の大学と入学時期、卒業時期がずれていることが多く、日本での就職活動の流れをつかめないと不安に思う方も多いでしょう。けれども現在は、インターネットで企業情報を得ることができ、エントリーシートの提出や説明会の登録が可能です。企業の採用慣行は過渡期にあり、採用を春と秋の二回にしている企業、通年採用を実施している企業があります。また、海外の大都市では、日本人留学生を対象としたキャリアフォーラムが開催されていますので、留学先によっては、海外で就職活動を行う機会があります。ただし、日本国内で通年採用を実施する企業や、海外の就職フォーラムに参加する企業数はまだ限られています。現状では、留学先で情報収集を始め、卒業後すぐに帰国し、海外の大学を卒業した学生向けの就職フォーラムなどを利用して就職活動をするか、海外の大学で学士課程を卒業した後、日本の大学の修士課程に進学し、就職活動に備える学生もいます。

協定・交換留学、休学留学（日本の大学に在籍中に留学）した場合

まずは留学するタイミングを考えましょう。学士課程3年次の夏までに帰国すれば、現状では一般的な春採用に向けた就職活動に間に合います。ただし、留学先での履修にあたり、日本の在籍大学で専門科目を履修済みであることを求められた場合、履修できる科目が制限されることがあります。また、協定・交換留学の場合、就職活動のために一時帰国することを認めない大学があります。在籍している大学の担当部署と相談して、留学のタイミングを決めることをおすすめします。留学の期間にかかわらず、目的と成果をしっかりと示すことができれば、留学経験は就職活動で大きなアピールポイントになるはずです。

海外での就職

海外で就職するには、まずは求人があること、現地で働くための労働ビザが発給されることが条件です。通常、労働ビザは雇用主が費用を負担して手続きされます。採用に至るには、現地の人では代替できない知識・技術を備えていることが必要です。海外では企業は即戦力になる人材を求めています。インターンシップの経験を積んでから、採用に至るケースもあります。積極的にインターンシップに参加し、職務への理解を深めるだけでなく、そこで人脈を作ることも能力の一つです。



留学先によっては、比較的仕事が探しやすい場合もあります。ただし、海外で日系企業に就職した場合、一般的には日本で同じ企業に採用されるより待遇が悪いことが多いので、将来のキャリアプランを考え、たうえで選択肢に入れることをおすすめします。

企業は留学を通じて広い視野、主体性、積極性、異文化コミュニケーション力、チャレンジ精神を培った人材を求めています。留学中は語学力の向上だけでなく、異文化の中で人としての資質を磨くことを忘れないでください！

留学経験者のリアルVoice ～留学後の就職活動に役立ったこと～

- 留学経験・国際経験
- 語学力（語学試験のスコア）
- 現地でのインターンシップ経験
- 視野の広さ
- 異文化理解力
- コミュニケーション力
- 現地で作ったコネクション・人脈
- 留学経験者からの情報・ネットワーク
- 専門性